



人材育成を見据えた 産官民学で取り組む山岳教育

津田吉晃（筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所）

はじめに

筑波大学、信州大学、静岡大学、山梨大学の4大学は林野庁関東森林管理局、中部森林管理局と山岳域における諸課題の解決に必要な高度専門人材の育成、調査研究、技術開発等について連携及び協力して取り組むための協定を締結している。筑波大学ではこの協定を活かした、実習、授業をこれまで行ってきた。2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、林野庁関東森林管理局・中部森林管理局職員や複数機関、団体等の協力の下、2年ぶりとなる3泊4日の実習を行った。また、両局職員と学生らのオンライン交流セミナーなども行った。これら取り組みについて紹介する。

— 山岳科学が関連する分野

理学分野

生態学、系統分類学、
遺伝学、気象学、地形学、
地質学、水文学、地理学

工学分野

河川工学、環境工学、
森林工学、土木工学、
社会学、リスク工学

山岳科学

農学分野

〔自然科学〕 造林学、森林立地学、治山学、
砂防学、森林保護学、林産学
〔社会科学〕 林政学、林業経済学、環境経済学
森林風致学、山村社会学

<https://mountain-studies.tsukuba.ac.jp/>

目的

山岳・森林地域の森林管理、生物多様性保全、野生動物管理、防災、地域観光などについて、現場での見聞を広げる。

関連する行政機関、民間企業、団体、個人
、、、様々な方々の協力・連携

実習内容

- 9月12日：みなかみ町の地域活性化
(協力・関東森林管理局、みなかみ町、たくみの里、他)
- 9月13日：赤谷の森の見学
(協力・関東森林管理局、日本自然保護協会)
- 9月14日：浅間山周辺での森林管理・木材流通+α
(協力：中部森林管理局・東信木材センター・
氷風穴の里保存会・安藤百福センター)
- 9月15日：山岳防災の見学
(協力：国土交通省利根川水系砂防事務所、
やんば天明泥流ミュージアム)
- 11月29日：林野庁2局職員との意見交換交流セミナー

学生からの声（部分抜粋）

- ・「地域に『イノベーション』を起こすこと」であり、たくみの里では人によるイノベーションがおこった
- ・たくみの里の取り組みは人口の少ない、特に大きな産業の無い地域の参考モデルとなる
- ・森林を管理・保全している現場に訪れること自体初めてであり、現場を五感で体感できた
- ・赤谷の森の生物多様性の復元についての話が印象的だった
- ・木材生産に向かない木々を伐採し、天然の森へと戻していくのが興味深かった
- ・赤谷の森がより美しい森へと変化していくことを楽しみにしている
- ・数年おきに森林を伐採し、草原をつくり、イヌワシ狩場を維持している点が、人間によるかく乱が草原性動植物のハビタットとなるだけでなく猛禽の餌を提供する場ともなるという点で興味深かった。
- ・多様な主体による国有林管理の先駆けとして赤谷プロジェクトに興味を持っていたので、実際に現地で試験地の見学と説明を受けたことでより理解を深めることができたと思う
- ・民有林には少ないいわゆる奥山の原生林を保全していくことは国有林の大きな役割だと思うが、それに向けた自然林復元試験の見学は大変勉強になった
- ・イヌワシの狩場づくりで伐採されたスギを「イヌワシ木材」として売り出す取り組みは、間伐材の有効利用だけでなく、イヌワシ保全に繋がるという価値を木材に付与するという意味でユニークだ
- ・林野庁の職員の皆さん、アツイ



地域振興視察および意見交換会



森林管理・育成・試験地の見学



野生動物保護、シカ管理の現場視察



レーザー森林測量の実演



関東森林管理局・中部森林管理局職員と学生らとの意見交換交流セミナー

- ・現実社会とアカデミアを結ぶユニークな取り組みとなった
→日本森林学会大会でも発表予定（2023年3月）
- ・様々な分野の山岳科学研究に取り組む、学生らにとって、これら現場重視の授業は非常に好評であった。
- ・今後もこのような取り組みを行い、拡充していきたい
→森林、林業業界への人材輩出へ